



5. 管理士になって

1. きっかけは一本の電話

垣花 真紀子

(沖縄県立宮古病院 薬剤師)

時代の変化は面白いものである。

老若男女がここまで健康に関心をよせたことが過去にあったでしょうか。

健康に良いと紹介されると翌日には陳列棚からその食品が消え、食品偽装問題がマスコミを賑わせる昨今。先日、デパートの試食の列に並んだ時のこと。私の前には5歳くらいの男の子を連れた若夫婦が焼小籠包を待っていました。いよいよ順番が回って来たところで、売り子さん曰く“お子さんにはアレルギーはありませんか。かなり熱いですが、直接渡して大丈夫でしょうかね。ご両親の許可が無ければお上げできませんが。食べ方はこのVTRのとおりですがお子さんに出来ますかね…”。いっきにまくし立てていました。食物アレルギーと火傷を心配して説明責任を果たしたということでしょうか。興醒めしながら、平成15年のBSE（伝達性海綿状脳症）問題が頭を掠めました。日本薬局方カプセルの大部分は、牛由来のゼラチンを使用していることもあって、医薬品メーカー各社より、安全性について情報が入ってきました。食も医薬品も共に口から入るため、安全であるという正しい情報に関しては常に意識し、薬剤管理指導業務の際にもすぐに対応出来るよう資料を整理して携帯していたものです。



サガリバナ

沖縄県の支部活動に関しましては、各委員より会報誌で紹介されておりますのでご存じの方も多と思います。今回は、私が健康食品管理士になったきっかけを含め、振り返って見たいと思います。私は宮古島に生まれ育ち、高校から島外に出て、就職を機に島に戻りました。沖縄県は、宮古島；石垣島の離島を含む6つの県立病院があります。大学を卒業してから、すぐに県立病院で働きはじめ、那覇病院→宮古病院→中部病院→北部病院→那覇病院→南部医療センター・こども医療センター→宮古病院へと3～5年で転勤を命ぜられながら現在に至ります。宮古病院勤務は新採用の時を含め2回目の勤務となります。

北部病院で休日ひとり勤務をしていた時の事、一本の電話が入りました。同じ県立病院で働く臨床検査技師の先輩からで、『試験どうだったか』ということでした。職種が違うから別の会場で試験をうけていると思ったとの内容でしたが、試験って何？と情報を持ち合わせていませんでした。ちょうど、第1回の認定試験が沖縄で開催された日であったことを後で知りました。

翌年、那覇病院へ転勤し、南部医療センター・こども医療センターへ新築移転；電子カルテ導入の準備に携わることになり、先輩薬剤師から前年度発足したばかりのNSTに誘われ、業務を引き継ぐことになりました。そんなおり、沖縄県薬剤師会から1枚のポスターが届いたのです。あなたも健康食品管理士になりませんか！とのタイトルで認定協会からの案内でした。昨年電話で連絡があった事を覚えておりましたので、すぐに結び付きました。目を引いたのは、『あなた

が薬剤師さんの場合：この資格取得の勉強で健康食品のこのみではなく「臨床検査値の読める人」になります。それは、研修会において臨床検査学の教育を受けるからです。活躍が期待される分野：栄養サポートチーム（NST）メンバーとしての協力』という内容でした。NST委員会の中での役割もまだ理解出来ていない状態でしたので、何か得ることが多そうだと直感し、指定講習会を受講し、第2回の認定試験に望みました。沖縄支部は薬剤師の比率が少ないのですが、役員に加えていただき、多くの貴重な職種との出会いが私の財産となっております。

日本食品安全協会会報 第8巻 第3号の冒頭『宮古島の方の平均寿命の意味すること』を2013年7月に宮古島で講演いただいたことをきっかけに長村理事長に紹介していただきました。週末ともなると、様々な行事のある島で、今回の市民公開講座としての企画は、参加動員を得るのが難しかったことを、私の力不足と反省しております。お天気にも恵まれ、婦人会や七夕のイベントなどいくつかの行事が重なりましたが、会場に足を運んで下さった方には満足のいく内容であった事と自負しております。準備期間が6月の当院新築移転；電子カルテの導入と重なりましたが、沖縄支部の皆さんの支えがあってこそ開催出来たことを、この場をおかりして、心から感謝したいと思います。ありがとうございました。

さて、宮古島にもマクドナルドが進出したことが長村理事長より紹介されましたが、店内の客のみでなく、2つあるドライブスルーのレーンには車が常に並んでおります。1件建つと、脳血管疾患のリスクが1%上昇すると聞いたことがあります。手軽で安価、季節毎に新メニューが発表されるたび、行列が目につかび先が思いやられます。沖縄県では、次世代の健康教育事業として、「健康おきなわ21」を策定し、県民の健康づくりを積極的に推進しております。しかし、平成22年都道府県生命表によると沖縄県の平均寿命は、男性が全国30位、女性が全国3位となっており、健康長寿おきなわブランドのイメージが崩れつつあり危機感を強く持っております。沖縄県糖尿病対策推進会議のメンバーとして参加しておりますが、同じ沖縄でも地域差があり、悪いデータの根源は宮古島にあると指摘を受けます。宮古島が足を引っ張っているのはなぜなのでしょう。他府県に比べ、沖縄は夜型社会であることは認めるところではありますが、沖縄本島と異なり、公共交通機関がほとんどなく、100メートル先のスーパーにさえ自家用車で出かけ、飲んでも手軽にタクシーが利用出来るため深酒になってしまう生活環境からでしょうか。マクドナルドこそ、昨年上陸しましたが、私が子供の頃にはすでにA&Wがあり、海水浴の帰りには、必ずといってよいほど立ち寄ったのを覚えています。

県外の方には馴染みがないかと思うので、A&Wについて解説を加えたいと思います。1919年に、ロイ・アレン（Roy Allen）がカリフォルニア州のロディで、ルートビアスタンドを開店したのが始まりで、A&Wドライブインや屋台等を開店する権利を与えるというアメリカで最初のフランチャイズレストランチェーンを作り、それから8年の間に、アメリカの中西部を中心に、全国で171のフランチャイズ店が作られたようです。1950年までには、450店のA&Wドライブインが、1963年に日本初のファーストフードレストランが沖縄に開店。ドライブインやアメリカンスタイルは、大人から子供まで大人気で現在県内に26店舗、宮古島には空港店も含め2店舗あります。マクドナルドこそ最近ですが、以前からファーストフードに慣れ親しんでいたと言えます。ちなみにマクドナルドは1976年に日本初が沖縄県で開店し、現在41店舗。これだけが足を引っ張る要因とは思えません。

1919年といえば、奇しくも、英国のE. シャーピー＝シェーファーがランゲルハンス島からの内分泌ホルモンとして「インスリン」命名をした1918年の翌年となります。糖尿病が死の病ではなくなった記念すべき年であることは、皆さんもご存じの事と思います。

私は患者さまやそのご家族との初回面談の際、『いわゆる健康食品；サプリメント』について必ず確認するよう心がけております。これまで、様々な場面に遭遇して来ました。

※医薬品と同成分のグリベンクラミドが含まれていることを知らずに、中国漢方薬の効果に期待して処方された糖尿病薬とあわせて摂取されている方

※医学の知識がある歯科医師が、実際の治療薬はそこそこに片手いっぱいサプリメント（ピルケースにぎっしり詰め込まれており、パッケージがないため成分不明）を月10万円もかけて摂っていらっしゃる方

※スキルス胃癌でBSC（best supportive care）の方針となり食事もうけつけ無い中でもご家族が差し入れるサプリメントは摂られる方

※腎移植後やSLEの方々の病室で、1本8千円のジュースを購入しているところに出くわした時のこと。購入のきっかけをたずねると、一日も早く体力をつけて退院したいとの思いであり、入院後友人の勧めでずっと飲んでいるようで、主治医からも指摘を受けたことがないから問題ないと思っているとおっしゃる方（ベッドサイドに置いてあるけど注意を受けたことがない）等々、効果が確実に期待される医薬品より、健康食品類の信頼度が高く、口伝えでの認知度が高い事を幾度となく経験しており、正しい情報を発信していくことの重要性を強く感じております。患者さまのところに出向く時、医薬品集やiPad miniに加え、協会から出版された『健康食品 ポケットマニュアル』が必需品となっております。当院に移動となった職員には、1年目に必ずプレゼントし指導の手助けとなるよう活用を勧めております。

院内ではチーム医療が実践されております。健康食品管理士は多職種の専門家集団であり、社会の中でチーム医療と同様の活動が出来る組織であると信じて、これからも活動していきたく思います。

終わりに 下記は2013年7月の写真です。



左：長村洋一理事長と沖縄支部の高嶺房枝先生、仲程昭子先生
東平安名崎（日本百景や日本の都市公園百選、国の史跡名勝天然記念物に指定）
中：宮古島空港 七夕のイベントで笹の葉展示あり
先生方は短冊にどんな思いをたくされたのでしょうか
右：宮古島空港にてお世話になった先生方をお見送りありがとうございました

2. 健康食品管理士としての私の試み

小西 光子

(済生会松山病院)

私が「口から食べる大切さ」というものをテーマに在宅患者の支援を考え始めて2年になる。未だ患者さん及び患者のご家族さんへの直接的な支援には至っていないが、この2年間での道のりは、それなりに意義のあるものになっていると思う。またここにきて急に広がりも感じ始めたので、それも含めて軌跡を追いながら報告する。



【最初に】

まず研修会を開催していく上で決めなくてはいけないことは、誰が誰に講義をするのか、どういった内容の会にしていくのか、何を目的に行っていくのか、このコンセプトをしっかりと決めておくことが重要だと思われた。そこで私は、理念を「健康食品管理士の業務拡大と高齢者の支援」という2本柱で行こうと考えた。健康食品の弊害ばかり訴えるのではなく、食欲の落ちている高齢者に「口から食べる」という行為を助ける栄養補助食品の正しい情報を提供する業務を健康食品管理士が担い、高齢者の在宅支援をしようと考えた。

また、誰が講義を担当するのかという点については、病院でNSTの勉強会に参加している企業にお願いした。受講者は、この研修会に興味を示してくれた介護支援センターや居宅支援センターの看護師さんやヘルパーさんとした。内容は企業に任せることにしたが、講義だけでなくサンプル提供もお願いし、実際に在宅支援をしている看護師さんやヘルパーさんがサンプルを食べてみて、納得するものを利用者さん（私たちがいうところの患者さん）にすすめてもらうといった形式にした。

【研修会内容と担当企業】

第1回 平成25年6月19日

「おいしく食べて元気でいられるために」 クリニコ

第2回 平成25年8月7日

「口から食べることの大切さ」 大塚

第3回 平成25年11月13日

「高齢者の脱水、低栄養について」 明治

第4回 平成26年1月22日

「食べる機能の大切さ、モグモグゴクンの秘密」 キューピー

【研修会の感想】

私は研修会を開催するたびに、前回の受講者の感想を聴くようにしている。また、講義をして

くれた企業の人にも感想文をだしてもらったこともある。

おおまかに紹介すると、受講者の人たちがサンプルを持ち帰り、利用者さんに食べてもらい、2名が続けて食べるようになったという報告があった。また、別の人は、このサンプルを食べたことによって、口から食べるようになったという、うれしい報告もあった。「やって良かった！」と思える報告だった。

一方、企業の感想は概ね同じようなもので、自社の製品が購入してもらいやすいように、ドラッグストアやスーパーマーケットに置いてもらい始めたが、認知度が低いので、こういった研修会で自社の製品を知っていただきたい、といったものだった。

【広がり】

平成26年1月22日に開催した4回目の研修会で、栄養補助食品市場の過半数を占めていると思われる企業の講義が終わり、一区切がついたと思った（社員の配置のため、当病院で講義をすることが難しいとのコメントをいただいた企業も含む）。今後は要望があれば開催することにし、その旨を関係者及び各企業に伝えたところ、隣接する老人保健施設の事務長から新年度から始める「経口摂取委員会」で、ぜひ健康食品の話と栄養補助食品の話をしてもらえないだろうか、との要望があった。また別の老人保健施設からも時間の関係から研修会に参加できないので、研修会をその施設でやってもらえないかとの要請を受けた。勿論、快諾したのは言うまでもない。

少しずつ広がりを見せている取り組みに、一緒にがんばっている当病院の健康食品管理士である技師長も喜んでいる。

【最後に】

「口から食べる大切さ」をテーマに高齢者支援を考えると「おいしさ」が重要なポイントになってくると思う。先日の研修会で学んだことだが、この「おいしさ」は人によって違っている。ここが難しい点だと強調されていた。高齢者の食事のおいしさは『食歴』を考えなくてはならない。五感だけではなく、食事まつわる思い出を噛みしめている、というのだ。大仰に言えば、食事を通じて人生を味わっているようだ。

そう言われればそうかもしれない。食べることが大好きな私は年老いたとき、どんな食べ物をうれしそうに食べるのだろう。食事の中にどんな人生を味わうのだろう。そう思うと、「口から食べる大切さ」という栄養補助食品を通じての高齢者支援が実に奥の深い、意義のある支援であることに今更ながらに気がついた。今後もこの活動を続けながら、健康食品の業務拡大と高齢者支援の2本柱の理念を忘れることなく頑張っていこうと思っている。くじけそうになったときに



は、「口から食べるようになった！」という人の言葉を思い出そうと思う。

【追伸】

ほかほかの出来事を1つ。4月10日に老健施設の多目的ホールで「経口摂取委員会」主催の勉強会に健康食品管理士と栄養補助食品の企業（今回はキューピー）とで1時間の話をすることになった。全職員対象で、ヘルパーさんや看護師さん、事務員さんなど50人強が集まるとの連絡を受けている。18時からと少し遅めだが、仕事を終えてからとなると、この時間になるのだろう。内容は未定だが「おいしく食べるための工夫」のようなものを考えている。もし、これがうまくいけば、次に繋がるのではないだろうか。本当に世界は広がっていると感じている。